



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根城の価値

不戦の城

江戸時代の城は
戦闘を知らない

城郭は、「戦い」のために造られた。と多く人は信じている。

しかし、江戸時代の城の大多数は、「戦い」に使われた経験がない。

しかも、関ヶ原合戦時の大津城籠城戦や大坂の陣などを経験し、決して城郭が「戦い」の中で万能ではないことも経験した。

それにもかかわらず、江戸時代は「城郭」を必要とした。

彦根城の世界遺産登録では、そこに価値を見出そうと考えている。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根城の価値

江戸時代の 彦根城

統治拠点としての4つのポイント

江戸時代の彦根城は、彦根藩・井伊家 30 万石の統治拠点として利用された。
その彦根城には、江戸時代の政治に関する 4 つの特徴を読み取ることができる。

- ① 平野部に存在する小高い山を利用して、目立つように設計されていること。
- ② 圧倒的な堀・石垣に囲まれた、完結した政治の空間を形成していること。
- ③ 効果的に各種の儀礼が行えるように作られていること。
- ④ 藩主、井伊家は将軍を補佐する家柄で、最も典型的に城郭を営んだこと。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根城の価値

彦根城の外観 を読み解く

統治拠点としてのポイント

堀と石垣に囲まれ、外部から隔絶するとともに、最高所に天守を構えるなど、彦根城の外観は、江戸時代の藩による政治の特徴を示している。

すなわち、①幕府に認められた存在であること。②独立した地方権力であること。

③領地の繁栄と安定に責任を持つ唯一の存在であること。

こうした外観を見せることによって、武士たちには自らの責任を、領民には社会の安定をイメージさせた。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根城の価値

彦根城の内部 を読み解く

統治拠点としてのポイント

彦根城の内部は、天守という象徴的な存在を中心として、大名の住居である表御殿と、政治に参加する全ての重臣の屋敷が集められた。

この配置は、藩主の独裁で政治が行われるのではなく、重臣（家老）たちの合議によって、政策が決められたことを示している。

また、江戸城で行われる種々の儀礼が、彦根城でも実施できるように、庭園や能舞台も作られた。幕府の方針を、正しく領地に伝えるためである。



国宝 彦根屏風（部分）・彦根城博物館蔵



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

国宝 彦根^{びょうぶ}屏風

文化あふれる 江戸時代

江戸時代の魅力とは

江戸時代の政治の特徴を一言で言えば、それぞれの身分の役割が明確にされ、責任をもって、それぞれの役割を果たすことが求められたことである。厳しい身分制度の時代であった反面、それぞれの役割・責任を果たしていれば、その他の活動を行うことも可能であった。これによって、武士や領民の身分を超えて、経済活動や文化活動が活発になった。国宝彦根屏風は、その生き生きとした時代を表現する代表的な作品である。